

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5336 日本古語を学ぶ1			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	100
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜3限				
教室	B207教室				
代表教員	津田 博幸				
担当教員	津田 博幸				
テーマと到達目標	『源氏物語』を通して古代日本語を読めるようになることと、古代語を通して日本語について深く考えられるようになることを目指す。『源氏物語』は第一級の文学である。そして、その文章の凄さ・おもしろさは原文（古語）で読まないといけない（『源氏物語』に対して現代語の訳本はみな無力である）。初学者でも大丈夫のように手引きする。辞書を引き引き苦労しながら、しかし、ぜひ楽しんでほしい。				
概要	今年度から「須磨」の巻を読む。主人公光源氏は帝の妻との浮気が原因で朝廷から官位を奪われ、流刑地であった須磨で謹慎生活を送る。源氏の人生のどん底時代の物語である。現代の読者の多くは源氏に対して「ざまあ見ろ」と思うところだろうが、前近代の読者たちは源氏に同情の涙を流したはず。というのは、これは神や高貴な人物が流離の苦難に沈む「貴種流離譚」と呼ばれるタイプの悲劇のパターンの物語なのである。さて、現代の読者である我々は源氏に同情できるだろうか、原文を読みつつ考えてゆく。講義形式。なるべく楽しくやりたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	ここまでのストーリー・主要登場人物の確認と古文入門。				対面授業
第2回	源氏、須磨行きを思い悩む。				対面授業
第3回	源氏、紫の上の同行を思い悩む。				対面授業
第4回	源氏、単身での須磨行きを決心。				対面授業
第5回	源氏の須磨行きに対する藤壺の反応。				対面授業
第6回	源氏が須磨へ出発した際の様子。				対面授業
第7回	語り手が出発前を回想（以下、同じ）――源氏、幼い息子と対面。				対面授業
第8回	源氏、舅の左大臣と対面。				対面授業
第9回	源氏、心境を左大臣に語る。				対面授業
第10回	左大臣、亡き葵の上（源氏の正妻）のことを語る。				対面授業
第11回	三位の中将（葵の上の兄）、出発前の源氏を見舞う。				対面授業
第12回	宮の御前（葵の上の母）、源氏に和歌を送る。				対面授業
第13回	源氏の宮の御前への口上。				対面授業
第14回	源氏の宮の御前への返歌。				対面授業
第15回	源氏に仕える人々の様子。				対面授業
成績評価の基準	全授業時数の3分の2以上の出席と課題提出を必須とする。毎回、授業後にポータルを通して課題（その日の講義内容に対する理解の確認、発展的考察・質問などを200字以上）を提出。毎回の課題の評定の総計で評価する。				
履修にあたっての留意事項	・「日本古語を学ぶ2」（後期）と合わせて履修されることをお勧めする。 ・国語の教員免許取得希望者はぜひ履修してほしい。 ・古語辞典を持参すること（高校時代に使っていたものでよい。電子辞書も可）。 ・オンライン授業の併用は原則として行わないが、受講者に病気等のやむをえない事情がある場合はZoom中継の視聴および講義後のZoom録画の視聴を認める。希望者は講義開始の30分前までにポータルの「授業Q&A」で申し出ること。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業	下記順位のとおりの優先する [1]教職中学校・高校(国語)受講者				

の優先条件	[2]T学科の低学年から順に優先 [3]上記[1][2]以外
-------	-----------------------------------

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	プリントを配布。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に適宜指示。	参考文献(ISBN)	